

**第3回西表島森林生態系保護地域保全管理委員会
議事概要**

| ガイドや観光客の現状について | |
|---------------------------|---|
| 委員 | 空港が新しくなったことと、世界遺産の話が起こっているからということもあり、島を訪れる人が多くなっている。その中でガイドの役割が非常に大きくなっていくと思われるが、現状ではどうなのか。 |
| カヌー組合 | カヌー組合に関しては、受け入れる人数を最初から制限しているのので、去年はいくら観光客が増えたとしても、上限が決まっているのでそれ以上は受け入れていないというのが現状。ただ、現在、西表島でカヌー組合に入っているのは34業者だが、実際問題、カヌー組合に入っていない業者がどんどん増えている状態で、その業者に関しては、特にルールはないので、行きたい場所に行きたいだけ行くということが見受けられている。 |
| エコツーリズム協会 | 最近増えてきたのはカヌー業者だけではなく、トレッキング、ダイビング、シュノーケリングの業者も、近場の滝や山に入ることが最近多くなってきている。今後そのような業者に対しても、一応のガイドの資格等を決めたほうがいいのではないかと感じている。 |
| 委員 | エコツーリズム協会のほうでも、把握しているのはカヌー組合に属している業者のみで、それ以外の業者の数や、入り込んでいる地域なども完全に把握できていないのが現状。印象では、カヌー組合以外の業者は20以上あるのではないかと、組合加入業者と合わせて60業者くらいあるのではないかと想定している。現状把握が難しい状況である。 |
| 委員 | 近年ガイドとして山の中に入って来られるかたがずいぶんいて、ルートを外れたりしている。また、昆虫採集等で、夜間に入林する人が結構いる。狩猟期間では、ワナにかかったイノシシと遭遇することがあり、猟友会としても懸念している。入林届やそのような箇所立ち入り禁止をお願いしたい。 |
| 野営の可否についての議論の経緯の確認 | |
| カヌー組合 | 昨年のこの委員会では、たくさんの委員から、非常時は保存地区でキャンプをする場所を確保したほうがいいのかという意見が出たが、その時の林野庁の回答では、非常時であっても保存地区では、テント設営は認められないということが前提だった。しかし今回の案は、「非常時を除き」と書いてある。なぜ変わったのか経緯が知りたい。 |
| カヌー組合 | 今回は、第3回で保存地区内での緊急避難で、キャンプをしてもいいというような方向になっているが、前回の第2回の際は、キャンプは禁止だった。一方で、現地の案内の看板に「全行程キャンプ禁止」と掲げられている。昨年度の委員会での方針が決定事項ではないということか。また、今回の方針が決定になるのか確認したい。 |
| 事務局 | 委員会の4回目、5回目で中間報告でとりまとめて、5回目では最終的に管 |

| | |
|--|---|
| | 理計画を作ってゆく行程なので、まだ議論の過程にあると考えていただきたい。 |
| 九州森林管理局が提示した、「第1山小屋跡」と「第2山小屋跡」を緊急避難箇所として指定する案について | |
| エコツーリズム協会 | 「第2山小屋跡」や「第1山小屋跡」、「尾根広場」のあたりは、増水時も冠水しないし、一番安全な場所と思われる。 |
| エコツーリズム協会 | 「第1山小屋跡」と「第2山小屋跡」はいいとは思いますが、両方ともかなり川に近い場所で、急な大雨時での緊急避難をしなければいけない状況では、水没の危険がないような場所を他にも候補地として考えたほうがいいと思う。 |
| 委員 | 予想だにつかない集中豪雨があるので、最大限カバーできるようにする必要がある。 |
| 事務局 | 水没の危険性については、緊急避難箇所を設置した場合には、場所がどこであるかということを知周知する必要があると思っている。その際に、利用上の留意点ということで、水没等の危険性も含めて周知を図っていきたい。 |
| 横断道の遭難事故対策について | |
| エコツーリズム協会 | <p>避難候補地ということであれば、確実に避難してそこで安全が保てることを考えれば、屋根だけでいいので、そこで待てるような場所の設置をお願いしたい。そうすることによって安全も保たれる。西表島は雨が多いので、増水時に渡れない場所がたくさんある。イタチキ川を過ぎてから中間広場と第一山小屋までのあいだで、雨などで行けなくなった場合は動けなくなる。ましてや冬の時期は北風が吹いて雨が降ると、体感温度が非常に下がってしまう。真冬時に山に入ると、息が白くなって手がかじかみ、動けないような状態になる。それだけ体温も低下してしまう。</p> <p>第二山小屋や第一山小屋、尾根広場のあたりは、増水時も冠水せず一番安全な場所と思われるので、できれば第一山小屋、第二山小屋にはせめて屋根があつて連絡が取れる避難場所を設置してもらいたい。</p> <p>できれば林野庁の職員か誰かがいれば、横断道の道もよくなり、危険性も低下し、植物の採取や、昆虫の採集で入る人も防ぐことができる。遭難時に戻ってこない場合に連絡が取れば、消防団も早朝から動く必要がなくなる。</p> |
| 事務局 | 構造物についての是非はいろいろあると思うので、そのあたりも議論していただきたい。 |
| 委員 | 世界遺産登録に向けて動いていった場合に、当然入る人が増えて、構造物を作らないのであれば、遭難者が出たときに、それを助ける人はやはり現場の地元の人になる。そのようなことも含めて行政は構造物を作らないのだったら、できるだけ早く動ける体制を作るなど、地元の人への負担を減らすための動きを、行政はどこまでできるのかという提案をおこなわなければ、納得していただけない。この点を留意していただいて、次の素案の中に盛り込 |

| | |
|-----------------------|---|
| | んでいただきたい。 |
| 環境省 | 構造物や緊急避難場所については、現在、林野庁と相談しているところである。この場や、個別にでもご意見を伺って決めていきたい。 |
| 委員 | 例えば、第二山小屋のテントを張る場所に環境省が看板を立てた地点には、6月の梅雨時にイリオモテムヨウランが群生する。そのような場所になるべく環境には負荷をかけて欲しくないで、人工構造物は個人的には反対である。 |
| 横断道の管理の在り方について | |
| エコツーリズム協会 | イタチキ川を過ぎてから尾根広場の周辺、特に中間広場や第一山小屋のあたりは、放置されたテントやキャンプ道具一式、寝袋、衣類、バッグなどが非常にたくさんあり、横断するたびに回収して持って帰っている。要するに、増水時に川を渡れなくなって、そこでテントを持っていない状態で寝袋だけ持って行って、そこで寝泊まりをしたのだと思われる。そして、寝袋が濡れた状態で持って行けないため、そのまま放置していくということである。そのためにも、雨だけでもしのげる屋根がある避難場所を設置してもらいたい。 |
| 事務局 | 構造物についての是非はいろいろあるので、そのあたりも議論していただきたい。 |
| 委員 | 寝袋等が濡れてしまい、登山者がかついで歩くことができずに持って帰れなくてゴミが増えていくという背景がある。しかもそれを処理しているのが、行政ではなくこれまでは森本氏個人であり、それでなんとか景観が保たれているという状況があった。世界遺産登録に向けて動いていった場合に、当然入る人が増えて、その時に屋根のある構造物がなければ、寝袋やテントの放置の事例は統計的に増えていく。その時にまた、森本氏など個人の協力に頼るわけにはいかない。構造物を作らないのであれば行政はどこまでこうした管理をサポートできるのかを提示してほしい。 |
| カヌー組合 | 横断道に行政が設置した看板があるが、それが古くなって倒壊して放置されている。何度か担いで持って帰っている。これはどこが管理しているのか。 |
| 事務局 | 原則としては設置者が管理をするということだが、現実として放置されている状況ということで、そういった場合に、どのように対処すべきかも含めて検討していきたい。 |
| 環境省 | 今年から横断道の管理をエコツーリズム協会にやっていただいている。来年度も実施予定である。 |
| 外来種について | |
| 委員 | ギンネムやソウシジュはたしかに密生して繁茂することもあるが、そのままにしておけばいずれ消えてゆくと思う。注意が必要なのは、アメリカハマグルマ、ツユヒヨドリが挙げられる。人が植えていることもあるので、啓発が必要である。 |
| 環境省 | 環境省では今年度から動物を含めた西表島の外来生物の調査を始めてい |

| | |
|--------------------|--|
| | る。 |
| 啓発・環境教育について | |
| エコツーリズム協会 | 浦内川から横断道に入る場合は、浦内川観光という業者が入込客のチェックができる体制になっているのが、大富側にはチェックする最後の機会がない。せめて大富側の入り口のどこかに、チェックができる場所があると思う。大原の森林事務所が大富の第二ゲートあたりに新たに設置できれば一番いい。一昨年には、横断道の中で死体が見つかり、行くまでそれを誰も把握できていなかったことがあった。また毎年横断道上の希少な植物が盗掘されているが、今のところそれを防ぐ手立てがないが、大富側に誰が入って誰が出たかを管理できるような体制を作れば対処できる。 |
| 事務局 | 入込の関係では、入山目的のかたは入林届を提出していただいているが、全数を把握できるような仕組みにはなっていない。関係機関や地元を含めて相談しながら検討したい。 |
| エコツーリズム協会 | 森林管理署の車が林道の入り口に停まっているだけでそこで何かしようとする人はおそらく入ってこないと思う。また、イリオモテヤマネコが夜間にひかれる時間帯はだいたい決まっているので、その時間帯にスピード違反の取り締まりをするなどできれば減ると思う。村田氏など民間がパトロールをやっているが、それよりも行政や警察がきちんと動いたほうが、スピード違反もなくなるのでヤマネコの事故も減らせる。 横断道もどんどん荒れているので、人が入って管理することで、危険な場所の回避ができるし、生態系保全も図れると思う。 |
| 委員 | 植物や昆虫など、商業目的で大量に採取されることは防がなければならない。抑止力が大事で、パトロールのような体制があれば有効である。 |
| 委員 | 外国のかたも増えているのか。国によって考え方が違うということもあるので、それに対するわれわれの対応も必要。 |
| カヌー組合 | インターネットによる周知のように、前倒しでできることからやっていってはどうかと思う。例えばこの会議でも、長い会議名だけではあまり伝わらないが、どういったことが今西表島で問題になっているのか、林野庁はこういう思いでこのようなことに取り組んでいるといった思いだけでも、今のうちから情報発信していくことが大事ではないかと思う。 |
| 委員 | まずは、地元が自然をどう考えるか、自分たちの郷土をどう考えるかということが大事。また、たしかにインターネットは非常に便利な手段だが、使い方によっては危ないこともある。インターネットは一方通行なので、情報だけが先に走ってしまい取り返しがつかないこともある。私としてはある程度基本的な裏付けと管理ができることが必要だと思う。 |
| 委員 | そもそも山に入ってどこから生態系保護地域なのか、どこまでがバッファ一、コアなのかがわからない。やはりそれが分かるのは、地元でガイドをしているかたたちで、何かの制度を作るしかないのではないかと思う。 |

| | |
|---------------------|--|
| | <p>また、例えば九州森林管理局が指定したルートについては立ち入りを認めると言っても、それが守られているかどうかを確認するためには、申請や許可の制度がないとできない。そのあたりについては、どのような制度作りが考えられるのか。</p> |
| 事務局 | <p>現地でどこがコアでどこがバッファーなのか分からない現状では、その中でいろいろと守ってくれとお願いしても無理な話なので、図面と現地表示を使って、周知のための整備をしていきたいと考えている。</p> <p>マナーの部分をどのように担保していくかが非常に難しいところがあり、その中でガイドは、非常に重要な立場になってくると思う。また、制度をどうするのかも、よりよい体制が構築できればと考えている。今回意見をいただいた入口でのチェックや周知も含めて、是非ともできることから始めて、順次進めていきたいと思う。</p> |
| 委員 | <p>資料には教育ということが抜けているのではないか。</p> |
| 委員 | <p>エコツーリズム協会では、島内の子どもたち向けの環境教育のプログラムは夏休みに重点的に実施している。ただ、全て助成金や自主財源でやっていて限界がある。林野庁や環境省、竹富町と連携をして広い範囲での活動をやっていきたいと考えている。</p> |
| カヌー組合 | <p>林野庁の森林生態系保全センターが、かなりすごい環境教育に関するプログラムを作っていて、推進しようとしているのだが、現状では竹富町の小中学校の教育の現場にまだ浸透していない。せっかくこういった場でいろいろな人が集まっているので、システムがうまく機能するようにやってほしい。</p> |
| エコツーリズム協会 | <p>ビーチクリーンや学校での講習会や登山の応援もやっている。また、例えばイタチキ川周辺の横断道では日体大がキャンプをしながら実習をしていた。ただし、今はキャンプができないということでやめてしまった。自然を守るためには自然を知ることが1番なので、できるだけ自然に入って、自然の専門の人も招いているいろいろな体験教育をおこなっていくことで保全につながると思う。今後そういった教育にも力を入れていただき、山の中でのキャンプをしながら、自然体験、自然の生態系を学べるようなことができればと思う。</p> |
| モニタリング体制について | |
| エコツーリズム協会 | <p>サンゴ礁の調査で、リーフチェックというシステムが世界標準でおこなわれているものがある。これはボランティア中心の調査で、マニュアルがきちんと作られているので、研究者ではなくても滞りなく調査ができる仕組みになっている。大きな意義として、きちんとしたデータが得られるということそれ以上に参加するかたの自然に対する意識が非常に上がるという点がある。そのような仕組みを考えていただくと良いと思う。</p> |
| 委員 | <p>その他に西表では、イリオモテボタルの観察調査会とカムリワシの一斉</p> |

| | |
|--------------------------|--|
| | <p>カウント調査が住民参加型のモニタリングとして実施されている。こういった調査は参加できることで楽しさを感じられているようであり、教育とモニタリングを結び付けて何かできないかと感じた。</p> |
| <p>沖縄県</p> | <p>利用に関する調査ということで、目的はオーバーユース対策ということだと思うが、そのモニタリングで、過剰な利用が見込まれて、自然環境に大きな負荷がかかっているという地域が判明した際の対応は、1日あたりの利用人数を定めるとか、入山規制をするということも含めたオーバーユース対策になっているのか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>あくまでも影響の調査ということだが、調査結果が出た段階で、どういった措置をとるべきか、いろいろと検討していかなければならないと思っている。オーバーユース対策となれば、やはりわれわれの単独の取り組みではなくて、関係する行政機関、関係者を含めていろいろと検討して行かなければならない。</p> |
| <p>竹富町の方針について</p> | |
| <p>委員</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・竹富町全域をほぼ国立公園に指定しようということである。 ・昨年の6月に景観条例と景観計画を作って、超高層ビルは作られないように誘導している。 ・イリオモテヤマネコの交通事故防止をどう図るかということが大きな課題と考えている。県道での事故が多いことから、道路の環境整備ということがいろいろな意見として出てきており、環境省と一緒に、県にも訴えていこうということも計画している。 ・ヤマネコマラソンがあり、4,000円の参加料から1人あたり200円をヤマネコ保護基金に積み立てている。 ・人が生活をしているので、生態系を守りながら、生活もしっかり守っていくことが大事。 ・今後はガイドが鍵を握るのではないかと。町としてもできるガイド養成等に深く関わりながら、保全と利活用を図る方向で取り組んでいきたい。 |